

令和5年度 第2回熊本市小中一貫教育懇談会（概要版）

「熊本市の小中一貫教育の取組について」 令和5年10月2日（月）15:00～16:30

事務局説明 第1回小中一貫教育懇談会のまとめ及び今回の協議テーマについて

①小中一貫教育懇談会の今年度の目標の確認

子どもがもっとわくわくする学校にするために
小中一貫教育の視点でできることって何だろう？

②第1回小中一貫教育懇談会のまとめ

【取り組んでいる内容】（一部抜粋）

○管理職・担当者の連携

- ・校長会、教頭会、人権教育主任会を毎月開催

○校内研修・職員会議の連携

- ・月1回小中合同会議の開催
- ・研究テーマを小中同じにして研究を推進

○小中の交流・連携

- ・英語と音楽の乗り入れ授業の実施
- ・特別支援学級の児童生徒の交流
- ・水防訓練での引き渡し訓練を小中合同で実施

○9年間のカリキュラム

- ・人権学習カリキュラムマネジメントを基盤とした小中一貫教育

【課題】（一部抜粋）

○小中の交流・連携

- ・小中連携の成果を実感できるものでないと継続が難しい。

○地域との連携

- ・子どもがやりたいことを叶えようとする職員数が足りない。地域の方を巻き込んでいきたい。

③今回の協議テーマ

小中一貫教育の取組を持続可能なものとするために

○小中一貫教育は長期的な視野に立つて行うもので、期待される効果がすぐに表れるものではない。取組を重ねていくことで成果が出てくる。

○PDCAで取組の改善をすることにより、取組の形骸化を防ぎ、不断に取組の検証・改善を繰り返すことで充実することができる。

○子どもが生き生きと活動するなど、子どもの姿が変容し、それを評価することで、教職員がメリットを実感する。

意見交換（取組を持続可能なものとするために）について ～ まとめ ～

【中学校区における効率的な共通理解】

○中学校区で合同研修を行うには時間がかかるため、各校でビジョンを共有し、校長会で情報共有している。各校で校長から担当に話をすることで少ない時間で各校に広げられる。

○中学校区での校長会を月に1回行い、校長同士の連携を図り、生徒指導等について情報共有をしている。共有した内容を各校の教頭、教務、担当等に伝え、担当同士で協議できるように、校長はつなぐ役目を果たそうと意識している。できるところをやっていく。

○各校が離れている分、お互いの指導を直接見ることができないので、共通した指標で教育活動を評価していく必要がある。共通した指標があると先生方も話しやすくなる。

【子どもが主体的に取り組めること】

○さわやか推進事業はPTAが主催であるが、基本的には生徒が進め、子どもたちが主体的に活動できるようにしている。終了後、生徒たちは達成感をもっている。地域の方々の子どもたちへの評価も高くなる。できるだけ子どもたちの活躍の場を地域でつくっていきたい。

○子どもたちの活動がうまく作れるような時間と場所を確保すること、また、子どもたちも職員もやって良かったと実感できるプロジェクトにしていけば、持続可能なものとなる。

【取組内容の吟味】

○実践の中で、できることはないかという視点で進めている。今ある資源で先生方の負担にならないようにする。また、地域のためになるようなことであれば十分持続可能である。

○子どもの困り感を取り除くための人権や特別支援に関する合同研修会を開催し、効果的だった。自然に継続されていくものと変えなければならないものという意識を持って取り組むことが必要である。